

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ミユビゲラ

Picoides tridactylus inouyei Yamashina, 1943

玉田克巳（地方独立行政法人北海道立総合研究機構）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：玉田克巳，2026. ミユビゲラ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 864-868.

Citation: Tamada, K., 2026. *Picoides tridactylus inouyei* Yamashina, 1943. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 864-868.

ミユビゲラ

Picoides tridactylus inouyei Yamashina, 1943

カテゴリー判定結果		情報不足 (DD)			①②
基準 A: データ不足	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
容易に絶滅危惧カテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとしてカテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 ①どの生息地においても生息密度が低く希少である。 【判断理由】 北海道中央部の大雪山系の針葉樹林において繁殖した確実な記録がある。個体数は極めて少なく、断片的な生息情報があるだけである。生息数は、成熟個体 50 個体未満（絶滅危惧 I A 類の基準 D）と推定されるが、生息数、生息密度、個体群の動向など、生息状況を評価ができるだけの情報がない。分類という視点からも情報が不足している。 ②生息地が局限されている。 【判断理由】 本種は、ユーラシア大陸の北方針葉樹林（タイガ）とヨーロッパアルプス・天山山脈・崑崙山脈・横断山脈などの山岳針葉樹林に広く分布しているが、国内では北海道中央部の大雪山系の針葉樹林で記録があるだけで、世界的にみて、生息地が限定的である。					
評価分科会： 鳥類分科会					

概要

種ミユビゲラ (*Picoides tridactylus*) はユーラシア大陸の北方針葉樹林（タイガ）とヨーロッパアルプス・天山山脈・崑崙山脈・横断山脈などの山岳針葉樹林に分布する。国内では本亜種が北海道中央部、大雪山系の針葉樹林で個体の観察記録があり、繁殖も確認されているが、情報は断片的で、継続的な観察記録はない。

協力者: 加藤克（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）・西海功（国立科学博物館）

基礎情報

【形態】

基亜種 (*Picoides tridactylus tridactylus*) では全長が 20~24 cm、体重がオス 65~74 g、メス 54~66 g。体の背面は黒色で、中央部から腰にかけては白い。腹面は白く、脇に暗色の縞がある。オスの頭頂は黄色い。趾は第 1 指を欠き 3 本である。種ミユビゲラでは北の個体群に比べ南の個体群は暗色となる。エゾアカゲラ (*Dendrocopos major japonicus*) やエゾオオアカゲラ (*Dendrocopos leucotos subcirris*) は下腹部が赤く、コアカゲラ (*Dendrocopos minor amurensis*) やエゾコゲラ (*Yungipicus kizuki seebohmi*) はより小型で背面の羽色が異なる。

【生活史】

生活史の詳細は不明である。1942 年 9 月に国内ではじめて、十勝三股においてオス 1 羽が観察され、同年 11 月 11 日、12 月 17 日、12 月 19 日に、同地域で銃によって、オス 1 羽、メス 2 羽が採取され、新亜種として記載された。1956 年に、造材現場で伐採されたエゾマツ (*Picea jezoensis*) からヒナ 3 羽が保護され、うち 1 羽が 1957 年 1 月まで飼育されたが、死亡した。この個体は北海道大学農学部博物館（現北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）に剥製として所蔵されており、営巣木の一部も保存されている。この記録が、本種が繁殖しているとされる唯一の記録である。その後、1962 年 7 月に旭岳天女ヶ原で、1988 年 9 月に東大雪のニペソツ登山道などで観察記録があるほか、2006~2009 年の 6~7 月、2010 年 10 月、2011 年 5 月に十勝岳で観察記録がある。観察や捕獲の記録は断片的であるが、繁殖期である 5~7 月、非繁殖期である 9~12 月まで記録があり（12 月の捕獲時期は積雪期であった）、留鳥とされている。1942 年に採集された 3 羽の胃には多くのヤツバキクイムシ (*Ips typographus japonicus*) とシラフヨツボシヒゲナガカミキリ (*Monochamus rosenmuelleri*) が含まれていた。また、川辺 (2014) によると、本種が目撃されたいくつかの地点では、目撃の数年前に大規模な風倒があることが分析されており、風倒による昆虫の発生との因果関係がある可能性が示唆されている。

基亜種の生活史は以下のとおりである。枯損あるいは内部が腐朽した木の幹に毎年穴を穿って巣をつくり 5 月上旬に産卵する。一腹産卵数は 3~6 卵、抱卵期間は約 11~14 日、育雛期間は 22~26 日である。雌雄で抱卵・育雛を行う。幼鳥は巣立ち後 1 ヶ月ほどで独立する。留鳥であるが、北のものは冬季に南へ移動し、不定期な渡り (eruptive migration) も知られている。樹皮下にいるクイムシ類 (Scolytidae) やカミキリムシ類 (Cerambycidae) などの穿孔性甲虫の幼虫・蛹を主要な食物としている。

【生息環境】

観察や捕獲の記録は断片的であるが、確認地点は大雪山国立公園の区域内で、おもにエゾマツやアカエゾマツ (*Picea glehnii*) などのトウヒ属が優占する森林である。

種ミユビゲラはユーラシア大陸の北方針葉樹林 (タイガ) と中緯度の山岳針葉樹林 (亜高山帯針葉樹林) に生息し、シベリアではカラマツ林に、他の地域では主にトウヒ属からなる森林にすむ。国内では本亜種が大雪山系のエゾマツ・トドマツ (*Abies sachalinensis*)

が優占する針葉樹林に生息し、特にエゾマツ・アカエゾマツ (*Picea glehnii*) の多い森林を好む。

生息環境区分： 【陸域_中標高地】 森林

国土地域区分： (1) 奥山自然地域

【分布域】

種ミユビゲラは北欧から極東にいたるユーラシア大陸の高緯度地方とヨーロッパアルプス・天山山脈・崑崙山脈・横断山脈など中緯度の山岳地帯に分布し、国内では本亜種が北海道中央部の山岳地帯（大雪山系）に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

観察記録は非常に少なく、かつ断片的であり、現在の生息状況ははっきりしない。

【生息地の現況】

観察記録のある地域は、現在では国立公園の区域内である。

【個体数の現況】

観察記録が少なく、生息密度が非常に低いと考えられる。

存続を脅かす要因

観察記録が少なく、生息状況ははっきりせず、種の存続を脅かす要因などはわからない。

要因の区分：	(過去)	不明
	(現在)	不明

特記事項

北海道は、極東における本種の分布南限にあたる。1942 年に 3 羽が採取され、山階芳麿博士によって、形態などから日本固有の亜種とされ、日本鳥類目録第 8 版においても、この分類が採用されている。孤立した個体群と考えると、個体群の規模はかなり小さい。国際鳥学会の IOC World Bird List (v 14.2)では、8 亜種に分類され、*Picoides tridactylus inouyei* は固有亜種として扱われているが、Cramp (1985)では 3 亜種に分類されており、*Picoides tridactylus inouyei* の記述はない。Dement'ev & Gladkov (1951)においても 8 亜種に分類されているが、分布地域として日本（北海道）にかかる記述はなく、*Picoides tridactylus inouyei* の記述もない。エゾミユビゲラの標本は、山階鳥類研究所にタイプ標本を含む 3 羽、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園に 1 羽がある。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園の標本については、1997 年以降、標本の遺伝子を調べたいという研究者からの照会はない。遺伝子に基づく亜種分類の知見が乏しく、分類という視点からも情報が不足している。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	CR
第4次 2019:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	CR
第4次 2018:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	CR
第4次 2017:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	CR
第4次 2015:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	CR
第4次:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	CR
第3次:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	CR
第2次:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	CR
第1次:	ミユビゲラ	<i>Picoides tridactylus inouyei</i>	E

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【北海道】絶滅危惧 I A 類(Cr)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種，鳥獣保護管理法

参考文献

- Cramp, S. (ed.), 1985. Handbook of the birds of Europe, the Middle East and North Africa, Vol. IV. Oxford Univ. Press, Oxford. 960pp.
- del Hoyo, J., A. Elliott and J. Sargatal (eds.), 2002. Handbook of the Birds of the World, Vol. 7. Lynx Edicions, Barcelona. 613pp.
- Dement'ev, G. P. and N.A. Gladkov, 1951. Ptitsy Sovetskogo Soyuza. Sovetskaya Nauka, Moscow. (Birron, A. and Z. S. Cole (Translated from Russian), 1966. Birds of the Soviet Union. Vol.1. Israel Program for Scientific Translations, Jerusalem.)
- Gill, F., D. Donsker and P. Rasmussen (Eds). 2024. IOC World Bird List (v 14.2). Doi 10.14344/IOC.ML.14.2. <http://www.worldbirdnames.org/>
- 稗田一俊・長谷智恵子・望月達也・東淳樹・荒哲平，2013. 北海道におけるミユビゲラ *Picoides tridactylus* の観察記録. 日本鳥学会誌，62: 184-188.
- 井上元則，1946. エゾミユビゲラの食性と森林害虫と関係. 生物，1: 169-172.
- 井上元則，1948. エゾミユビゲラ発見記. 野鳥，13(2): 2-3.
- 井上元則，1972. エゾミユビゲラ（蝦夷三趾啄木鳥）一趾が三本のキツツキー. 北国の自然と野鳥 付・丹頂鶴の興亡史，pp. 38-42.
- 川辺百樹，2009. 上士幌町鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告，31: 1-16.

- 川辺百樹, 2003. 大雪山国立公園鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告, 25: 1-49.
- 川辺百樹, 2014. エゾミユビゲラの生息と大規模風倒の発生. 森林保護, 336: 25-30.
- Leonard, D. L. Jr., 2001. Three-toed Woodpecker (*Picoides dorsalis*), The Birds of North America, No. 588, Cornell Laboratory of Ornithology and the Academy of Natural Sciences, 23pp.
- 松岡茂, 2004. レッドリストの生き物たち 13 針葉樹林一筋のキツツキミユビゲラ. 林業技術, 742: 38-39.
- 上田明良, 2007. ヤツバキクイムシとカラマツクイムシの生態. 森林保護, 306: 14-16.
- Winkler, H., D. A. Christie and D. Nurney, 1995. Woodpeckers, A Guide to the Woodpeckers, Piculets and Wrynecks of the World. Pica Press, Sussex. 406pp.
- Yamashina, Y., 1943. A new subspecies of *Picoides tridactylus* discovered in Hokkaido. Bull Biogeogr Soc Japan 13: 43-45.
- 柳澤紀夫, 1964. 北の鳥雑記ミユビゲラの観察. 野鳥, 29: 27-29.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Picoides tridactylus inouyei has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Picoides tridactylus inouyei* is listed as DD under criteria ①②.

The species that possesses attributes which could easily shift it into the threatened categories due to changes in environmental conditions (specifically, the following criteria), yet lacks sufficient data, including habitat status, to determine its category.

①Low population density and rarity are exhibited in all habitats where it occupies.

②Habitats are highly limited.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area】 Forest
Threat types:	Unknown
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.

執筆者: 玉田克巳 (地方独立行政法人北海道立総合研究機構)

Author: Katsumi Tamada

公表年月: 2026 年 3 月